

徳島県由岐町木岐地区における
「漁村オーラルヒストリー調査」の取り組み
～まちづくり・オーラル・ヒストリー調査報告～

正会員 八幡 桃子 *
同 後藤 春彦 **
同 田口 太郎 ***
同 佐久間康富 ****
同 笠原 卓 *****
同 遊佐 敏彦 *
同 今田 治宏 *

まちづくり・オーラル・ヒストリー まちづくり活動への展開

1 報告の位置づけ

専門家や学生など地域外部の主体が関わるまちづくりの現場において、「オーラルヒストリー調査」として、口述筆記によるまちの歴史を調査する試みがされてきている注1。「オーラルヒストリー調査」が調査にとどまらず、まちづくりの中で有用に活かされるためには、調査で得られた「まちの記憶」を、住民によるまちづくり活動へどのように展開していくかが、重要な課題と言える。

前稿の神奈川県小田原市における研究文献1においては、「オーラルヒストリー調査」を活用した、住民による活動展開への可能性を検討した。本稿は、住民のまちづくり活動への展開可能性を、特に活動の導入方法に着目し、考察することを目的とする。

今回の「オーラルヒストリー調査」の特徴として、1) ヒアリング対象者を町全域から選出するのではなく、比較的狭域な範囲である木岐地区に限定し、調査を行ったこと、2) 文字データだけでなく、地図に調査の中で出てきた場所を落とし込んだこと3) 調査の成果発表とその具体的活用を一体的にデザインし行ったこと、があげられる。

2 調査から活用までの内容

2003年度に徳島県由岐町で行った調査をもとに、「成果発表会」「オーラルヒストリー活用イベント」を実施し、その活動の成果と可能性を整理した。調査から調査成果の活用までのフローを図1に示す。

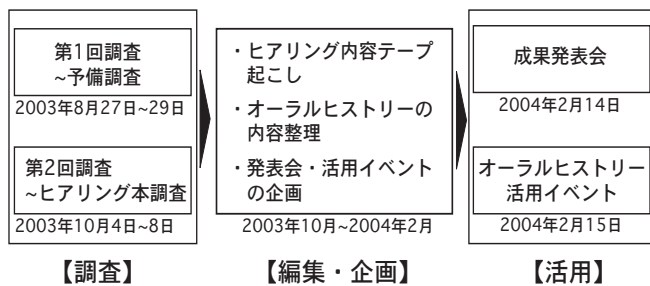


図1 調査から活用までのフロー

2-1 徳島県由岐町における

「漁村オーラルヒストリー調査」の内容

事前調査により木岐地区の概要を把握した上で調査対象者(漁業者、農業者、女性など20名)の選定を行った。本調査は5日間行い、調査対象者一人に対し2時間程度の聞き取り調査を行った。なお対象者には、聞き取り調査の過程で話題にあがった場所を地図上に書き込んでもらった。

本調査で得た情報は、文字データにした後、節ごとにカードにし、時代・内容項目で整理した(表1、写真1)。また、調査で得た地図情報は、地図上にまとめた(写真2)。

文字データの整理、地図情報のまとめから、特に、「南海沖地震～高度経済成長」の時代にインフラ整備が進み、まちの生活や、漁業・農業の様子が大きく変化したこと、またその前後には、共同井戸や玉突き場・映画館等の娯楽施設がまち中にあり、まちに活気があったことがわかった。反対に「高度経済成長～現在」では、漁業・農業の落ち込みや、子ども・若者が減った、など、全体的に活気がなくなっている様子が伺われた。



写真1 内容の整理



写真2 地図情報

時代区分	まちの様子	娯楽	漁業	農業
【戦前】 「室戸台風～ 南海沖地震」	・定期客船、木炭バス、鉄道 ・学校 ・昔の住まい ・食糧事情 ・橋屋 ・場所 ・南海沖地震	・海の遊び ・山の遊び ・まちの遊び	・大漁	・農作業 ・土留め ・葉煙草・米 ・炭焼き
【高度経済成長期】 「南海沖地震～ 高度経済成長」	・戦後の食糧難 ・子どもとお店 ・伝統 ・共同の場 ・インフラ整備	・海の遊び ・山の遊び ・まちの遊び ・映画	・大敷き網 ・教訓 ・造船	・基盤整備、構造改善 ・米から菊へ ・タケノコ ・車で運搬 ・下肥
【現在】 「高度経済成長～ 現在」	・自然の変化 ・まちと若者 ・住まいと人口 ・災害 ・満石神社の祭り ・お遍路さん ・まちづくり		・漁業の変化と今 ・漁業の共同化 ・海の環境 ・後継者	・ハウス ・竹炭 ・流通 ・後継者 ・堆肥

表1 調査結果の整理項目

2-2 成果発表会の内容

成果発表会は、調査のまとめを調査対象者を含む木岐地区の住民に知ってもらうことと、具体的なまちづくり活動への展開のきっかけとすることを目的とした。調査対象者の他に、広く木岐地区の住民に呼びかけ、木岐地域担当職員、木岐小学校生徒、由岐中学校生徒、保護者、その他住民が20人前後参加し行われた。成果発表会の内容は、調査結果の整理・地図情報のまとめと、活用案の提案、翌日のイベント内容の決定の3点である。

調査結果発表の前後では、参加者に地図情報を書き足してもらった。また、活用案の提案では、オーラルヒスト

リーを活用した物・活動の提案を行った(表2)。活用案は、発表会の中で参加者に人気投票をしてもらった。投票が多かったのはどれも活用した物の提案で、活用した活動の提案に対する投票は少なかった。

さらに、翌日実行可能な活動を提案し、発表会参加者に希望を投票してもらった。投票を行った活動案は、「山歩き」、「まち歩き」、「昔の遊び体験」、「住民参加のオーラルヒストリー調査」の4点である。投票結果は参加者20人に一つずつ活用案を選んでもらい、9票で「昔の遊び体験」に決まった。



	【物の提案】 ◁ 木岐めぐり 木岐のまち中の様々な写真やスケッチとその場所につわるオーラルヒストリーを1枚に収め、日めぐりカレンダーにする。	
	【活動の提案】 じじばばまちあるき▷ 場所につわる物語をまち歩きしながら語り合う。おじいさん、おばあさんは昔の話をして元気になり、若い人は場所につわる物語を直接聞ける。	

表2 提案した活用案の例



写真3 成果発表会/まとめ



写真4 イベント決定投票

2-3 「オーラルヒストリー活用イベント」の内容

前日の投票を受け、木岐小学校グラウンドにおいて「昔のあそび体験」を行った。木岐小学校生徒と、木岐小学校教員、小学生保護者、その他住民が参加し行われた。具体的な遊びの項目は以下の通りである(表3)。

「昔の遊び体験」であった為、遊び道具の準備、実演・

こもち	細い木の枝でつくった罠で、小鳥を捕る
こうちあみ	籠でつくった罠で、小鳥を捕る
竹鉄砲	細い竹の節をぬき、新聞紙の弾をつめてとばす
竹笛/ひょうたん笛	節をぬいた細い竹や、乾燥したひょうたんを笛にする
竹とんぼ	竹を適当な大きさに割り竹とんぼにしてとばす
こま	こまと紐を使い色々な技を競う

表3 体験した昔の遊び



写真5 昔の遊び/こぼち



写真6 昔の遊び/竹鉄砲

指導はすべて住民が行った。また、木岐小学校の生徒に保護者も加わり、作った遊び道具で実際に遊んだり、遊び方を教わったりした。

3 住民のまちづくり活動へ展開する際の課題と展望

3-1 「成果発表会」から「イベント」への展開

発表会参加者に活用イベントで実行するアイデアを選んでもらったことと、翌日にすぐ実行したことが、発表会参加者に翌日のイベントにも参加してもらおうきっかけとなったと考えられる。また、オーラルヒストリーという住民が持つ記憶を活用したイベントであったことが、発表会参加者にイベントの主催者として参加してもらえた理由ともなったと考えられる。

3-2 「オーラルヒストリー活用イベント」から住民のまちづくり活動への展開

活用イベントを発表会参加者が中心となって行えたことは、オーラルヒストリーを住民独自のまちづくりに活用する第一歩であったと言える。また、イベントの内容が、「昔の遊び体験」であったことから、子どもや、若い母親層の住民の参加が得られた。

「昔の遊び体験」を継続することが出来れば、地域学習、世代間の交流に寄与出来ると考えられる。さらに、今回のイベントは、参加者が全員木岐地区の住民であり、木岐地区でこのような取り組みを続けることは、木岐におけるまちづくりに寄与するといえる。

今後持続的なまちづくり活動として発展させていくためには、一時的なイベントに終わらず、住民主体で継続して行っていけるような配慮が必要である。そのためには、既存の地域のまちづくり組織や地域活動との連携が重要と言える。今回の「昔の遊び体験」で言えば、子どもに地域の文化・自然に対する理解と愛情を育んでもらう、総合的学習のプログラムの一つとして継続していくことも考えられる。

■補注・参考文献

注1 早稲田大学後藤春彦研究室では、以下のオーラル・ヒストリーの取り組みに関わってきている。

- ・山梨県早川町「2000人のホームページプロジェクト」(1988年~) ~全町民を取材し、記録をホームページで公開するプロジェクト。
- ・愛知県足助町(1999年)
- ・オーラルヒストリーからまちづくりの変遷を把握、批評を試みた。
- ・新潟県高柳町(1999年)
- ~地域づくりを住民の声を収集することで評価、その後のまちづくりの方針を示した。
- ・神奈川県小田原市(2001年~2002年)
- ~小田原市政策総合研究所の調査として実施した。
- ・兵庫県城崎町(2003年)
- ~城崎町中心市街地活性化基本計画策定の為の調査のひとつとして、地元中学生と学生で調査が行われた。

文献1 田口太郎、後藤春彦、山崎義人『神奈川県小田原市における「まち語り」「懐古新聞」の取り組み~まちづくりオーラルヒストリー研究-その1』日本建築学会大会学術講演梗概集2003年、F1分冊、p.1069参照

本調査は財団法人漁港漁場漁村建設技術研究所の助成金によって行われた。

* 早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修士
 ** 早稲田大学理工学部建築学科教授・工博
 *** 早稲田大学理工学部助手・工修
 **** 早稲田大学教育学部助手・工修
 ***** (株)漁村計画研究所・工修

* Graduate
 School, Dept. of Architecture, Faculty of Science and Eng., Waseda Univ.
 ** Prof., Dept. of Architecture, School of Sci. and Eng., Waseda Univ., D. Eng.
 *** Reseach-Assoc., Faculty of Science and Eng., Waseda Univ., M. Eng.
 **** Reseach Assoc., School of Education, Waseda Univ., M. Eng.